

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認、病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査の後に保管されている残った血液などの試料を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報や保管されている血液などの試料を利用することにご了解いただけない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡ください。

研究課題名	シンデカン 1 値を用いた心臓手術術後合併症発生の予測可能性の検討
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院 手術部
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山 隆 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	手術部 助教 谷島 明秋
研究期間	研究機関長許可日から 2027 年 3 月 31 日までの予定
対象	研究機関長許可日から 2027 年 3 月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち、心臓手術を受けられた 18 歳以上の患者さん
利用する試料・情報など	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、発症時期、合併症、既往歴、身体所見、血液検査データ、画像検査データ、治療状況など (利用する試料) 通常の診療で使用した後に残った血液などの試料
研究の概要	本研究は心臓手術を受ける患者さんを対象としています。近年の医学の進歩により一般的な手術の術後合併症のリスクは低くなっています。しかし、心臓手術においては術後合併症のリスクが未だに低いとは言えないです。心臓手術の術後合併症リスクを計算するスコアも複数存在しますが、スコアの計算には患者さんの年齢などの情報と併存症、動脈硬化といった情報から算出されます。このスコアの中に血管透過性(血管からどれだけ水が漏れやすいか)を表す指標は入っていません

	ん。血管透過性が高いということは血管から水が漏れやすいので術中や術後の点滴の量が多くなる可能性があります。心臓手術で術中の点滴の量が多いと合併症のリスクが上がる可能性が指摘されており大事な指標と考えられます。 そこでシンデカン 1 という血管壁の障害により血管から水が漏れやすくなると血液検査で上昇する指標を測定します。この測定値と術後合併症の関連について調べることを目的とします。
個人情報の取り扱い	収集した試料・情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を削除いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管いたします。そのため個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。 また、保管される試料・情報を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院 手術部 谷島 明秋 〒791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel:090-8206-6225